

講義名	朝鮮文化研究			授業形態	
担当教員	張 京花	開講期・曜日・時限	後期 金曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

主題と概要

文化とはアーノルドによれば、優れたと思われる偉大な文学作品・哲学・絵画・彫刻・古典音楽といった芸術や学問であり、ある集団の行動パターンや価値観など、人間が自然環境に適合するために作り上げたものごとで、衣履住をはじめとする生活形成の様式、宗教、技術、道徳、政治などを含んでいる。これらは我々が使う言葉や絵画、文庫、建築、音楽、ファッション、食事といったものを通して世代から世代へと受け継がれていくものである。日本と韓国は歴史が、地理的にもっとも近い国である。さらに、近年激変する東北アジアの国際情勢においても両国はパートナーシップを深めていく必要があり、韓国や朝鮮半島に対する異文化の理解は日本人のみならず諸外国の人や在日コリアンにおいて、自分たちの社会や集団にその理解を適用することが必要であると思う。そのため、本講義は日本人学生に限らず留学生や在日コリアンにも有意義な講義になると考えられる。本講義を通して、受講生には現代韓国の社会や文化のみならず朝鮮半島全体に対する理解を深め、近年迫ってくる朝鮮半島の平和体制構築や国際情勢の変化などの状況に対してどうするべきかを考える上で、自分なりに応用することを採る有意義な手掛かりを提供する機会になるだろう。

到達目標

本講義は、韓国に対する思考、食、衣、住、生活、コミュニケーション、制度など全般的な社会・生活文化の理解を元日本との類似点や共通点などを発見し、異文化である日韓の社会をより深く理解すること始発点とし、多様化した思考力を持つことができるようになる。

提出課題

毎回講義の内容をまとめて提出する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回講義でコメントを紙で書いてもらっているため、全体に対するフィードバックとして、次回の授業で前回の内容についてフィードバックをする。

評価の基準

平常点：50%（小レポート＆授業中のコメント、出席点などを含めた総合的な評価）
 （大学のOMRカードを利用して出席をチェックする。授業開始から30分が過ぎたらOMRカードを配布しないので欠席となる）
 期末レポート： 50%

履修にあたっての注意・助言他

授業中飲食物、私語は厳禁
 代理出席は厳しく禁ずる
 授業中作成したコメントから授業に対する理解度を判断することがある。

教科書

.使用しない。

参考図書

.現代韓国を知るための60章	石坂浩一・福岡みどり	明石書店	2200	9784750340821
.日韓の文化比較と日韓問題	梁禮先	朝日出版社	2100	9784255556680

その他

授業計画

- 履修者の理解度や関心度に合わせて授業を進めるので、多少変更することがある
- 第1回 ガイダンス（講義概要など）
 - 第2回 韓国の文字（ハングルについて）
 - 第3回 韓国の教育制度（キブテッド教育とは）
 - 第4回 兵役制度は必要か
 - 第5回 韓国の政治：大統領と曹瓦台
 - 第6回 K産業（ITの発展と構築）スマート・スモールマーケットなど）
 - 第7、8回 世界が熱狂するK コンテンツの現状
 - 第9回 K魂とは：映画「1982年生キム・チヨン」から語られる
 - 第10回 Kフードのグローバル化
 - 第11回 Kビューティーの世界へ（韓国は整形大国だろうか）
 - 第12回 韓国の家屋と伝統マワルの保存
 - 第13回 韓国の道義
 - 第14、15回 韓国の風水：朝鮮時代の首都は漢陽、東西南北

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習 講義の流れに応じて、参考文献などを参考に与えられた事前課題を解いてくる（2時間）
 復習 本日の講義の要点を整理する（2時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本講義は日本人学生に限らず留学生や在日コリアンにおいても、韓国や朝鮮半島に対する異文化の理解を通して自分たちの国・社会や集団にその理解を適用することができると思う。さらに、本講義を通して現代韓国の社会や文化のみならず朝鮮半島全体に対する理解を深め、自分なりに応用することを採る有意義な手掛かりを提供する機会となり、グローバルビジネスマンとしての資質・能力・考え方などを身につける有意義な講義になると考えられる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

授業に必要な資料を記すが再配布はしないので大事に保管すること。